

# かがやく花々

平和の子ら

学校法人平和学園  
平和学園小学校  
2016年度 学校だより 第9号  
〒253-0031  
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2  
Phone 0467-87-1662/ 0131  
Fax 0467-87-0411  
サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

## 年間聖句 (2016年度)

このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。  
ローマの信徒への手紙 14章18節

## クリスマスの喜び

校長 橘 明子

冷たい風が吹く季節になると、背中を丸めて急ぎ足になる朝。急ぐ人は、何を考えて歩いているのだろうと気になります。きっとその日の一日を想像し、またその日の予定と行動を頭に描いているのかもしれませんが。しかし、交通量の多い現代社会ですから、危険もたくさんあります。誰もが気を付けなければいけません。児童一人ひとりが、その道のりを一生懸命歩いてくる姿を思い浮かべ、「かみさま、無事に学校まで送り届けて欲しい」と祈る毎日です。

平和学園ではアドベントを向かえ、クリスマスを待つ準備に入りました。クリスマスを待つ期間にモミの木を飾り、クランツにローソクを準備し、礼拝当日を待ちます。この一ヶ月間、救い主の誕生を待ち望みます。第一アドベントで一本のローソクに火が灯るとき、学園に集う一人ひとりの心の中にもろうそくの灯がともります。

また今年度は、学園の70周年の節目の年。学園全体が12月16日にクリスマス礼拝を迎えることになりました。午前中に幼稚園は年少組のクリスマス礼拝の後、年中・長のクリスマス礼拝を行います。午後は小・中・高合同でイエスさまのお誕生をお祝いします。毎年毎年、クリスマスの時に流れる厳かな時間、緊張感を私たちは大切にしていきたいと思います。園児・児童・生徒のひとり一人がクリスマスの意味を心に留めて過ごしていきます。

イエスキリストは決して綺麗だったとは言えない馬小屋で生まれました。ふかふかの布団の中ではなく、もしかしたらチクチクしたであろう藁が敷いてある飼い葉おけの中に寝かされました。その救い主の誕生は町外れの町に住む貧しい羊飼いに届きました。異邦人

である東の国の占星術の学者たちが輝く星を見つけ、礼拝しに行こうと旅立ちます。この救い主の誕生の場面に出てくる一つひとつの役割には深い意味があります。たまたま羊飼いのところに天使がきたのではありません。たまたま東方の占星術の学者が見つけたわけではないのです。ぜひクリスマスのいろいろな礼拝に参加して、クリスマスの本当の意味を皆様にも知っていただきたいと思います。

平和学園にとって大切な行事であるクリスマス礼拝。70年の歴史の中で、毎年欠かさず続けてきた行事です。その時代を生きる子どもたちが本当の出来事を知り、様々なことを感じて大人に成長していきました。在園している子どもたち一人ひとりが今年のクリスマスで聖書の真理に触れて欲しいと思います。

イエスさまが、私たちの罪のためにお生まれになり、私たちのために十字架の道を受け入れて下さいました。ローソクの火が心の中に灯る喜びに感謝して、日々のあゆみの中に小さな平和を作り出し、隣人を覚えて祈り過ごしていきましょう。私たちの日々の生活がイエスさまの光によって導かれていくことを願っています。

